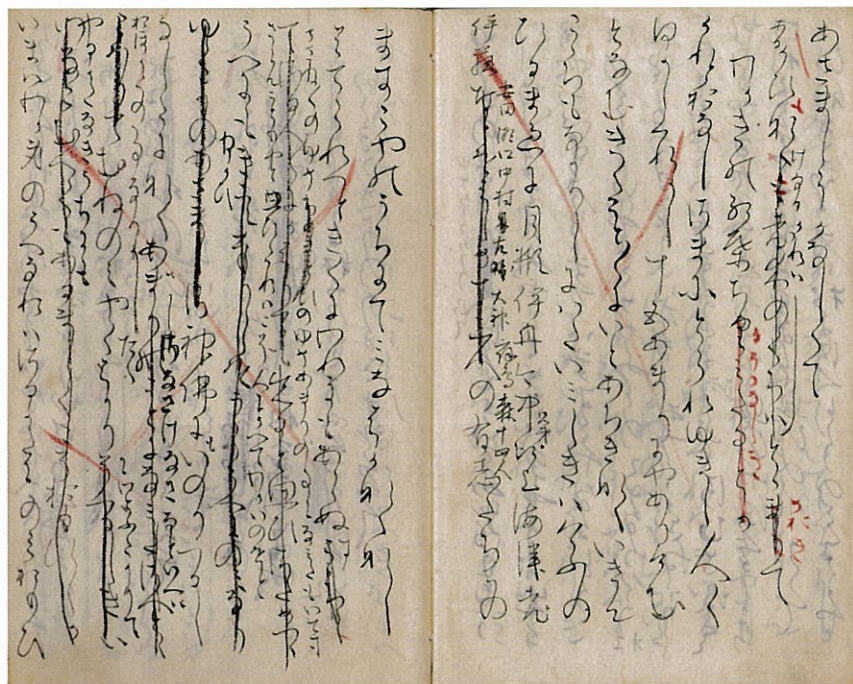


やまとの名品 天理図書館



ゆめかそへ

野村望東尼自筆

江戸末期 4冊

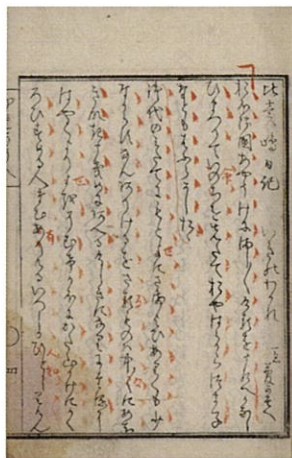
縦19.6cm 横13.3cm

野村望東尼は、病床の高杉晋作を看護した人物。勤王家として知られる、江戸末期の女流歌人である。

「望東尼」は通称で、「もとに」あるいは「ぼうとうに」と読む。名はもと。文化三年（一八〇六）福岡藩士浦野勝幸の三女として生まれ、二十四歳で同藩士、野村貞實に嫁ぐ。二十七歳のとき、夫と共に歌人大隈言道の門下となり、和歌を学んだ。五十四歳で夫と死別。剃髪して後、望東尼と称する。五十七歳、寺田屋事件の頃に激動の京都を訪れた望東尼は勤王活動に関心を持つようになり、自分の山荘に志士たちをかくまって密議の場を

提供した。その間に、高杉らと交流があったという。慶応元年（一八六五）六十歳のときに自宅幽閉を申し付けられ、玄海灘の姫島に流されたが、高杉の指示を受けた志士たち

に救い出された。その後、下関で病床にあった高杉を看病するも、高杉は慶応三年（一八六七）四月に没する。望東尼も同年十一月六日、六十二歳で病没。掲出本は、自宅幽閉から姫島流刑となった十五日目までの、約半年間を綴った自筆の日記。各冊に、墨や朱による推敲がみえる。望東尼はこの本の末に「人になん見せ給ひそいへにもつ



たはらぬやうにしなし給へかし」と朱筆で綴り、門外不出の書とした。貴重な幕末の記録文献であると共に、質の高い日記文学でもある。

挿図『比売嶋日記』は、『ゆめかそへ』等を元に版本となったもの。姫島流刑中のことを綴り、和歌が主となっている。

（天理図書館 池谷 礼）

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○6月の休館日:29日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）